

「在宅看護」学習指導案

広島県立広島皆実高等学校

(教諭・伊藤 里奈)

本学習指導案のポイント(高校教育指導課指導主事 宮本 洋子)

本学習指導案では、在宅で暮らす対象者の理解を深め具体的な思考を促すため、訪問看護の場面のシミュレーション活動を通して主体的に自律した学習を行うことができるよう工夫された授業展開となっています。

実際に在宅(自宅)への訪問について体験したことがない生徒に対して、ICTの活用やグループワークを行うことで、在宅訪問について身近に感じ、生徒同士の意見を共有することで学びを深めることができるよう工夫されています。

1 日 時 令和6年12月20日(金) 3限

2 場 所 成人看護実習室・在宅看護実習室

3 対 象 衛生看護科3年生 40名

4 単元名 在宅看護「在宅看護の役割と機能」

5 単元の目標

様々な疾病・障害の医療的処置などを継続しながら、在宅で生活している人々を支援するための知識と技術を習得し、習得した知識と技術を在宅療養者と家族等の多様な価値観や生活スタイルに応じて、適切に活用できる能力を育てる。

6 単元について

(1) 単元観

本単元では、実施する援助とその根拠を明確にすることをねらいとして設定している。そこで、多様な療養者と家族等が医療的処置などを安全に実施できるよう支援するとともに、生活の場における個々の療養者の状況に応じたリスクマネジメント、在宅療養者と家族等の生活の質の向上に向けた支援の重要性に気付かせたい。また、在宅療養者の健康課題に対して、生活の質の向上を目指し、保健医療チームの一員として主体的かつ協働的により良い看護実践を目指して自ら学び、実施する援助とその根拠を明確にして、課題を解決する力を養いたい。

(2) 生徒観

生徒は5年一貫看護教育の3年生であり、入学時より「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「基礎看護」「看護臨床実習」等の専門科目を学習している。生徒の多くは「看護は病院で行うもの」というイメージをもって入学している。

「在宅看護」の授業は、3学年で初めて扱われ、教室での座学授業だけではなく、月に1回フィールドワークとしてサービス付き高齢者住宅やデイサービスを訪問し、認知症カフェを開催し、療養者とのコミュニケーションやレクリエーション活動を行っている。この認知症カフェの体験を通して、生徒は看護は病院内で行われるだけではなく、地域でも行われているとの認識はあると考える。しかし、実際に在宅(自宅)への訪問については体験したことがないのが現状であり、療養者の在宅での様子を想像することが難しい生徒が多いのではないかと考える。また、核家族化が進んでおり生徒の大半は高齢者との同居経験や高齢者と直接接する機会が少ないのが現状である。

生徒は、看護師を目指して本校を受験しており、看護を学ぶという意欲を持って入学している。そのため、今まで知らなかったことに気づくことのできる内容の授業は興味関心が高く、主体的に取り組むと考える。

(3) 指導観

本単元では、在宅で暮らす対象者の理解を深め具体的に思考するため、実際の在宅訪問の場面を設定して、在宅訪問について身近に感じる機会としたい。その際、ICTの活用やグループワークを行い、意見を共有し学びを深めさせたい。

また、訪問看護師は、療養者の在宅での生活を知り、生活に直接関わる援助も提供する役割を担っている。訪問看護時に何をするかだけでなく、看護師が訪問しない時間にも目を向けることが、生活を見る視点となることを気付かせたい。在宅で暮らす対象者の生活を把握するための視点を生徒自身で考えることで、より主体的に自律した学習を行うことに繋がると考える。

7 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
在宅看護の役割と機能について理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けている。	在宅看護の役割と機能に関わる多様な課題を発見し、在宅療養者の権利を擁護し、その意思決定に沿って解決策を見だし、表現している。	在宅看護の役割と機能について自ら学び、在宅療養者の健康管理と生活の質の向上を目指し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

8 単元の指導計画(全3時間)

時間	学習内容	評 価			
		知・技	思・判・表	主	評価規準
1時間	・地域・在宅看護の基盤	◎		○	在宅看護の役割と機能について理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けている。 在宅看護の役割と機能について自ら学び、在宅療養者の健康管理と生活の質の向上を目指し、主体的かつ協働的に取り組む

①②③

					うとしている。	
2時間 2/2本時	・地域療養を支える在宅 看護の役割・機能		◎		在宅看護の役割と機能に関わる多様な 課題を発見し、在宅療養者の権利を擁護 し、その意思決定に沿って解決策を見いだ し、表現している。	①②

①授業に取り組む姿勢 ②ワークシート ③定期試験

9 本時の展開

(1) 本時の目標

在宅訪問の場面を通して、在宅で暮らす対象者の生活を把握するための視点について、具体的に考え表現することができる。

(2) 観点別評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	在宅看護の役割と機能に関わる多様な課題を発見し、在宅療養者の権利を擁護し、その意思決定に沿って解決策を見だし、表現している。	

(3) 準備物

教科書：メディカ出版「地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア」

(4) ルーブリック

A (十分満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
在宅訪問の場面を通して、在宅で暮らす対象者の個性をふまえ、生活を把握するための視点について、既習の内容と関連させて具体的に考え表現できる。	在宅訪問の場面を通して、在宅で暮らす対象者の個性をふまえ、生活を把握するための視点について、具体的に考え表現できる。	在宅訪問の場面を通して、在宅で暮らす対象者の個性をふまえ、生活を把握するための視点について、考えることはできるが、具体性がない。

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 本時の目標を確認する。	◇本時の学習目標を伝える。	
展開 40分	2 課題を見いだす。 ・事例患者の状態を理解する。	(発問) 利用者さんの部屋の様子から読み取れる生活状況について記入しましょう。	
	事例 Aさん 70歳代 女性 軽度認知症 一人暮らし 現病歴：糖尿病（内服治療中） 既往歴：高血圧（内服治療中） 病状の観察・服薬管理のため、訪問看護を週1回受けている 要介護1 歩行時は杖を使用 排泄は杖歩行で何とか自力で可能。入浴は週3回のデイサービスを使用。 毎日近くに住む長女が仕事帰りに夕食を作りに来る。昼は宅配弁当を使用。 おおざっぱな性格で、掃除や洗濯はあまり好きではないため、長女がほとんど行っている。		
	・スライドでAさんの部屋の状況を確認し、発表する。(2～3グループ) ・代表グループがAさんの部屋を訪問し、実際の部屋の状況を観察し、情報を整理する。 ・別の代表グループがAさんの部屋を訪問し、最初のグループとは違う視点で部屋の状況を観察し、情報を整理する。	◇写真より、Aさんの生活状況を把握するよう促す。また、スライドだけでは把握できない情報はないか、グループで話し合う。発表する時には、現在の状況・予測されることを説明しながら発表するよう促す。聞いている生徒は追記が必要であれば行うよう促す。 ◇実際の部屋の状況を確認して、生活状況を把握するために必要な観察について、具体的に考えるよう促す。 ◇グループ内で一人1回は必ず発言することを伝える。 ◆グループワークに参加できてない生徒には声をかけてワークに参加できるようにする。 ◇実際の場面を見て、気になった情報について、ロールプレイを通して、Aさんに確認する。 ◇グループの考えをまとめ、発表する。気付きや学びを共有させる。 ・気になる状況について、Aさんに確認する。	在宅看護の役割と機能に関わる多様な課題を発見し、解決策を見いだし、表現している。 (思考・判断・表現)
	3 課題解決を行う ・Aさんの生活を把握するための視点について考える。	(指示) 在宅訪問時に、利用者さんの生活状況を把握するための観察の視点について、考えを記入しましょう。 ・2～3グループ発表する。	
まとめ 5分	4 本時のまとめ	◇ルーブリックを活用し、本時の到達度、今後の課題を明確にする。 ◇自己評価表を記入する。	